

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500360		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	〒023-0841 岩手県奥州市水沢真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	令和4年11月5日	評価結果市町村受理日	令和5年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様の身体・精神面等の状態を把握し、他利用者様と安心して生活して頂けるよう介護・支援している。家族様の協力をいただき、新型コロナウイルス感染症予防対策として面会制限を継続している。利用者様には寂しい思いをさせないように、お誕生日会・お花見ドライブ・ミニ運動会・BBQ・敬老会・芋の子会・紅葉ドライブ・秋祭り・クリスマス会等色々なイベントを開催し楽しんでいただいている。又、近隣の産直祭りに感染症対策をして出かけ交流を図っている。施設の畑で野菜を収穫し利用者様と共に処理することにより、昔話に花が咲いたり、収穫の喜びや食事への楽しみに繋がっている。日中はカーテンを開けて施設内から子供たちの登下校の見守りをしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

奥州市水沢区の南側、田園地帯に建つ事業所である。隣接して大型産直があるほか、小学校や地区センターも近隣にあり、コロナ禍前は児童や地域住民との交流が盛に行われており、買い物や外出にも便利で、とてもめぐまれた環境にある。職員は「チームウェイ」という事業所理念のもとに、利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供に努めている。「劇団えんじゅ」を結成し寸劇等を披露して利用者を楽しませるなど、職員が一致団結して利用者の支援にあたっており、チームワークの良さを実感することができる。職員の資格取得などの研修の受講を支援するため、勤務時間の配慮をしたり、法人として研修費用を助成するなど、職員育成に対し、積極的に取り組んでいる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が「ほっ」と出来る生活を送るためにはどのようにすれば良いのか職員間で話し合い共有できるように事務室に「チームウェイ」を提示し、日々の介護支援に努めている。	理念を「チームウェイ」としてまとめた上で、具体的な実践目標を設け、3ヵ月毎の法人全体の会議で、職員の意見を汲み取った上で見直しを行いながら、介護計画に反映させて介護サービスの向上を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域との交流はしていないが、近隣の小学校の田植えの様子を遠くから見学したり、地域の方々から収穫した野菜の差し入れや様子伺い等の交流がある。	コロナ禍前のような地域との交流はできていないが、感染対策のうえ可能な限り地域と交流している。定年退職した元職員や利用者の知人、運営推進会議委員のほか地域の人たちが、気にかけて訪問してくれる。近所の方が大根など野菜を差し入れしてくれることもある。真城小学校児童の作品のプレゼントや学校の田植えの見学など、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から相談を受けた場合は、認知症の症状やそれについての適切な支援を説明できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用者状況や行事写真・広報を発行して書面による開催とし、ホームでの活動を理解していただいている。委員様より情報をいただいて田植えの見学に出かけている。	委員には、入居者、入居者家族、市職員、地区振興会長、行政区長、地区住民(訪問ボランティア)及び消防団を委嘱している。コロナ禍のため運営推進会議は書面開催となっている。外部評価の関係項目について各委員から意見を伺い、事業所の自己評価を会議録に盛り込んで委員に報告するなど、双方向の会議にし、運営推進会議を介護サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿社会課とは、要介護認定申請や家族の相談で助言いただいている。新型コロナウイルスワクチン接種対策チームからは集団接種のことで相談・助言いただいている。	市長寿社会課職員に運営推進会議委員を委嘱し、困難事例などについて相談し、助言をもらっている。災害などで被害が心配される時には、事業所では市から災害関連情報の提供をいただいている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催の身体拘束廃止委員会に3ヶ月に1回参加し、職員会議等で共有し確認している。何が身体拘束にあたるのか確認しながら、都度話し合いして身体拘束をしないケアに努めている。夜間のみ玄関に施錠している。	法人主催の身体拘束廃止委員会には、事業所から1名ずつの委員が出席し、事業所の職員会議で出席委員が復命している。法人全体で年1回研修会を実施し、その資料も職員に配布している。スピーチロックは、職員会議で年1、2回取り上げている。向精神薬は、精神科医師、利用者家族としっかり相談した上で投与している。玄関は夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人主催の高齢者虐待研修会に参加している。何が虐待にあたるのか確認しながら、都度話し合いして虐待をしないように注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人主催の権利擁護に関する研修会に参加して制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には入居後の生活についての不安軽減のために、本人・家族様に要望・意見を伺い十分な説明話し合いを行うことで理解・納得を図っている。又、改定の際は文章にて説明を行い、質問の際には十分な説明を行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を玄関に表示して、利用者、家族等の意見、要望を表せるようにしている。又、毎月のお手紙に記入欄を設けて意見・要望を聞く機会としている。意見・要望は職員会議で話し合い、運営に反映させている。	家族が来所しても、コロナ禍のため玄関先の窓越しでの対応としているため、なかなか直接に話をしっかり聞く時間が取れていない。利用料請求書を送付する際、家族からの「グループホームへの要望・相談・提案」欄を設けた職員からの手紙を添えるなど、利用者家族からの意見を聞く「機会づくり」に努めている。また、日常の会話で利用者は、お刺身やお寿司を食べたいとする希望が多い。	

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や朝のミーティングで職員の意見を聞き介護に反映させている。職員の資格取得の意向を把握し講習会に参加できるように勤務割表を作成している。又、法人として研修費用を助成している。	職員会議や朝のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員から、空気清浄機など利用者のためになる機器の購入要請があれば、検討し対応している。職員の資格取得にも積極的に支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりのやりがいや努力を理解し、各自が向上心を持って働けるように意見・要望等の理解・支援等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの個性や介護支援の力量を把握し、社内研修会に参加し介護の質の向上に努めている。又、働きながら質の向上ができるように他事業所への応援に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修や初任者研修、外部研修等に参加することにより同業者との交流を図り情報交換を行っている。又、他事業所への応援勤務を通じてサービスの質の向上や職員のスキルアップになっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の生活履歴や不安に思うことを本人に聴き取りし、必要なサービスを職員間で共有し話し合うことにより、本人が安心して生活できるよう良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活履歴や不安に思うことを家族に聴き取りし、必要なサービスを職員間で共有し話し合うことにより、本人が安心して生活できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてからも、本人と家族が必要としているサービスを把握し支援計画を作成し、馴染みの環境や通いの場に関係性が継続できるように努めている。		

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の何気ない会話を楽しんだり、掃除や洗濯干しなど本人が出来る事を職員と一緒にやる等、暮らしを共に支え合う者同士の関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会や行事参加等は新型コロナウイルス感染症防止で制限している為、お手紙や広報誌、ブログ等で利用者様の様子を発信し、又、オンライン面会や電話等を利用して本人と家族様との絆を大切にしながら共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響で制限はあるが馴染みの場所をドライブしている。面会等は窓越し面会で馴染みの方との関係が途切れてしまわないように支援している。	コロナ禍で制限はあるが、自宅や元職場などの馴染みの場所へは、車中から眺めるドライブを行っている。来所してくれる床屋さんとの新しい馴染みの関係もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の性格を把握し利用者同士が安心して過ごすことが出来るスペースを設けている。又、何かの時には本人が孤立しないように職員が間に入りお互いに関わり支え合えるような声かけをして支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族が気軽に相談できる窓口となれる様努めている。又、他施設に移っても支援が円滑にいくように本人・家族の相談に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの情報のほか、日常生活の会話の中から本人の思いや、意向を汲み取り寄り添った支援、サービスの提供に努めている。又、意思疎通の難しい方には、無理強ひすることなく、本人本位に任せている。	5、6人の利用者は、言葉で意思を伝えることができる。午前はコーヒー(またはココア)、午後はお茶を提供する「お茶の時間」を設け、利用者の思いや、希望、意向を聞く時間としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族、ご本人と面談し情報を得てこれまでの一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を理解し把握に努めている。		

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、介護記録、申し送り等で情報を共有し、日々の変化に気をつけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で話し合いを持つほか、毎日の申し送り等で現状を把握し介護計画に反映している。現状変化があった場合は見直しをしている。	新規利用者の介護計画の期間は3か月、その後は概ね6か月ごとに見直しを行っている。職員会議やミーティング等で利用者の状態を確認している。事業所では、コロナ禍のため、家族の意向の把握と介護計画変更についての説明等が十分にできていないことがあると考え、改善に取り組んでいる。	介護計画は、利用者への介護サービスの基本となるものです。コロナ禍で家族との長時間の面談時間を設けることが難しい中であっても、家族の意見を反映すること等は重要であり、面談等の方法について、さらに工夫されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や本人の言葉、訴えを個別に記録し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	組合理容の方が訪問して髪の毛をカットしている。利用者一人ひとりの希望を確認しながら、その方に合ったサービス提供出来るようにしている。又、希望される方は家族様に相談して、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に伴い、地域行事、催し物には参加できないが、広報や岩手日報新聞などで情報を収集し、話題にして楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの医療機関をかかりつけ医とし受診の支援を行っている。又、主治医への状態報告や指示受けを確実に、医療機関との関係づくりに努めている。	9人の利用者全員が、入居前からのかかりつけ医へ、家族が付添って受診している。利用者の症状等で心配な点があるときは、介護支援専門員は家族に説明の上、日常の健康状態を記載した書面を病院へ持参してもらっている。口腔ケアについてコロナ禍前は訪問歯科診療があったが、現在は、家族が支援して歯科に通院している。	

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時には、看護師に相談しながら早期対応受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院時には病院関係者と情報交換し、お互いの利用者について適切な判断をし次に繋がられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に利用者様、家族様に重度化した場合の対応に関する指針を説明している。	重症化した時の対応については入居時に説明し、お風呂に入れない、食べ物を飲み込めないなどから、事業所での生活が困難となった場合には、入院や特養などへの住み替え等について家族と協議することとしている。これまで看取りの実績はないが、訪問診療などの医療連携体制づくりをはじめ、家族を含めた関係者が連携してチームで支援することを目指し、今後、取り組み取組について検討を予定している。	今後、看取りの必要性が増していくことや、体調急変の事態が発生する場合もあり得ることから、万が一に備えて終末期の対応等に備えた職員研修の実施が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	突然の急変や事故に備え、定期的に普通救命講習で心肺蘇生法やAEDを学び訓練している。又、職員が応急手当普及員の資格取得し救命サポートステーションになっている。職員が動揺せずに救急車を要請できるように張り紙を作成した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導のもと(日中・夜間)想定の大規模避難訓練・通報訓練を行っている。災害時近隣住民の方に協力を依頼している。停電時対応として発電機を備蓄し使用の訓練をしている。非常食、ガスコンロ等を備蓄。震度5以上で近隣の事業所へ職員が駆けつける応援体制がある。	法人では、震度5以上の地震発生時に、職員は自宅から一番近い法人の事業所に参集(当事業所は近隣に居住する職員3人)することとし、各事業所の避難場所を相談・調整している。火災報知器の自動通報は、管理者、法人と消防に届くことになっている。避難訓練は年2回(消防立会1回)とし、夜間想定も訓練も行っている。運営推進会議の委員も避難訓練に参加していただいている。法人で水・米・麺類・缶詰などを1週間分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴、性格等を把握し人格を尊重しプライドを傷つけないような声かけや対応をしている。個々のプライバシーに配慮して居室の出入口にのれんを下げている。	声掛けは利用者に配慮して行ない、相手に合わせて方言を使うこともある。入浴等で異性介助を嫌う利用者には同性介助としている。食事の準備、片付けなどの作業に積極的な利用者には、できることをしてもらっている。居室のドアには、プライバシー確保のために暖簾を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との気兼ねない会話の中や日頃からの様子から、希望等を理解できるよう努めている。日常生活の中で様々なことを決めることが出来るサポートを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の居室には昔から使っていた家具等を持参して頂き、安心出来る空間を作り本人のペースで過ごせるよう支援している。又、本人の希望に沿って入浴を進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、季節に合った本人が着たい服を職員と一緒に準備している。散髪等、本人の希望に合うよう組合理容の方と相談している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中から好みを把握し、本人が食べられない食材の時は代替品を提供している。季節を感じて頂けるメニューを提供したり、畑で収穫した野菜を料理して楽しんで頂いている。片付けが出来方方には手伝って頂き共に生活している事を感じて頂いている。	利用者の誕生日の食事には、利用者の食べたいメニューを全員で食べている。寿司、刺身、生ものが人気である。外でのバーベキュー、回転寿司(コロナ禍のため現在は見合わせている。)は、いつもと違う楽しい食事の一つである。事業所の畑では、玉ねぎ、ナス、トマト、きゅうり、ピーマン、おくらなどを栽培し、食材として活用している。近所の人から野菜の差し入れをもらうこともある。芋の子会では利用者には皮むきを担当してもらうなど、一緒に準備や配膳、片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量や好みを把握し本人にあった食事や水分を提供している。食事量、水分量を記録し栄養摂取や水分補給の把握に努めている。又、栄養・水分等不足時には家族に相談している。		

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の歯磨きが、就寝時には義歯洗浄剤を使用して清潔を保持している。又、一人で難しい方には介助にて口腔内の清潔保持の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、プライドを傷つけないような声かけをして介助している。自分でトイレに行けない利用者は排泄表を活用してトイレでの排泄自立支援を行っている。	見守りや声掛けは時々必要ではあるが、9人全員が自立しているが、必要に応じて、排泄チェック表を活用して排泄の支援を行っている。夜間にポータブルトイレを利用している利用者は1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、定期的な水分補給、毎日のヨーグルトや野菜を多く取り入れた食事の提供、ラジオ体操で身体を動かす等で予防に努めている。下剤の服用管理をしている利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	一人ひとりの好みに合わせて入浴剤を入れたり、温度調節を行っている。又、一緒に歌を唄ったりして楽しい空間になるよう心掛けている。一人ひとりの状態に合わせて安全に入浴出来るように支援している。個別に係わりが出来ることから、普段きくことのない会話が生まれることがある。	入浴は週3回で、日曜日以外の14時から16時まで、1日5人、1人20～25分ほどの入浴である。入浴をいやがる利用者は上手に誘い、入浴を促している。利用者からの頻回の入浴希望に対しては要望に応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく睡眠がとれるよう、温度管理や衣類調節をしている。いつでも休息が取れるよう声掛けをしている。又、寝具はこまめに交換し清潔保持を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりの処方箋をいつでも見れる所に置き、疑問がある時はいつでも職員同士確認できるようにしている。副作用や様子の変化等に注意し、変化があった時には家族様に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや得意なことを把握して、洗濯物干しやたたみ方、茶碗拭き等を自分のペースでやっていただいている。誕生日会や季節ごとのイベントやドライブで気分転換をしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望でホーム周りを散歩したりしている。又、季節の変化を楽しんでいただけるよう希望の場所へのドライブを実施している。地域の情報を収集し、密にならないように注意しながら小学校の田植えの見学に行ったり、近隣の産直のイベントにも出かけている。	日常の散歩のほか、県立花きセンター、花見、紅葉狩りなどにドライブしている。感染防止のため、密にならないように注意しながら短時間の外出、見学としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人でお金を持っている人や施設で預かっている人もいる。本人が欲しい物を買えるようにしているがコロナ禍の為、職員が買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族へいつでも電話連絡出来るよう支援している。又、自分の携帯で電話したり出来ないときは代わりに電話したり充電もお願いされている。中には、LINEにてテレビ電話をする方もいる。又、毎年、年賀状を自分で書いて郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンや床暖房を使用したり、窓を開けこまめに換気したりして居心地の良い共有空間を提供している。季節に合った置物、飾りを置いたり季節を感じて頂けるよう工夫している。又、清潔感を保つことで利用者様に不快感を感じないように努めている。	電子ピアノ、カラオケセットがある。敬老会の写真や小学生からの作品のプレゼントなどを掲示し、居心地の良い空間作りに努めている。和室があるが、段差もあるため、あまり利用されていない。ナースコール(緊急通報装置)はトイレのみ設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士が気軽に会話して楽しめるように座席を工夫している。又、趣味の座席で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により写真、テレビ、位牌や馴染みのタンス、椅子等を持ち込まれて心地よく過ごされている。居室の出入口には、暖簾をかけてプライバシーを守っている。	居室には、洗面台、クローゼット、ベッドとエアコンが備え付けられている。位牌を持ち込んでいる人は1人。テレビは6人、携帯電話は1人が使用している。居室のドアにはプライバシーに配慮して、暖簾を掛けている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イス、手押し車を使用しても、安全に動けるようにテーブル等の配置を考えて通路を広くしている。自分の居室が分からない利用者には、居室の出入口に名前を表示してできるだけ自立した生活ができるように工夫している。		